

学校名	佐賀県立金立特別支援学校
-----	--------------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・成果指標(数値目標)はほとんどの項目で達成しており、「業務効率化の推進と時間外在校時間の削減」だけがB評価で、それ以外はすべてA評価となった。 ・本校は障害の程度が非常に重い児童生徒が多く在籍しており、効果的なICTの活用と教職員の専門性を高めることについては、今後も学校としての課題である。 ・業務の効率化と時間外勤務の削減を一層図り、その成果が職員のメンタルヘルスに良い影響を及ぼすとともに、教育活動の根幹である授業準備が十分にできていると多くの職員が実感することを目標としていく。
------------------	--

2 学校教育目標	○ 児童生徒の一人一人の状況(障害の状態や発達段階、特性)に応じた教育を実践する。 ○ 児童生徒が、「明るく」「正しく」「たくましく」生きていく力を育成する。
----------	--

3 本年度の重点目標	「つなぐれ未来 ― 明るく、正しく、たくましく」 ①児童生徒の主体性を尊重しながら、個に応じた教育を充実させる。 ②自立と社会参加に向けて、児童生徒の夢や希望を大切に教育を充実させる。 ③健康・安全教育を進めるとともに、思いやりや豊かな心を育む教育を充実させる。	
------------	---	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(イ)共通評価項目	重点取組								主な担当者	
	評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
					進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上		○児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○児童生徒の実態把握を行い、学習指導要領の各教科等の内容を踏まえた学習内容や目標を設定し、学力の定着につながる授業ができたと回答する職員が80%以上	・児童生徒に関わる複数の職員で客観的な実態把握を行い、学習指導要領に示された各教科の内容を踏まえた学習内容・目標を設定して年間指導計画、個別の指導計画を作成し、個に応じた指導支援を行う。 ・評価に基づいて、学習グループでPDCAサイクルにより授業、授業時数等を見直し、授業改善につなげる。 ・個人懇談や面談時に学習内容や目標、評価内容について、説明を行う。						教務部
		○児童生徒の主体的・対話的な学びの実現に向けたICTの効果的な活用	○アンケート調査でICT機器を活用し、主体的・対話的な学びの実現ができたと回答する職員、保護者が70%以上	・ICT環境の整備を行い児童生徒の実態に応じたアクセシビリティ機能の導入をする。 ・個々に応じた表現や対話への参加ができるようICT機器を用いた学習活動の工夫をする。						学習・情報部
		○児童生徒の主体性を尊重しながら、個に応じた進路指導の充実	○進路についての意見を十分に聞き、適切な指導がなされていると回答する保護者が80%以上	・個に応じた資料を必要に応じて作成し、職員、保護者へ提供する。 ・教職員を対象とした進路指導研修会や保護者を対象とした進路説明会を行う。						進路指導部
●心の教育		●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○心の教育活動や生命を尊重する教育に取り組むことができていると回答する職員が85%以上	・児童生徒の呼称等、児童生徒への職員の言動に関する意識向上を図るため、教務部・生徒指導部で連携し、アンケート調査を行う。 ・児童生徒会活動の一環として、嬉しかったことや友達の良い所をカードに書き出し、「えがのお木」に貼り付ける活動を行う。						(人権・同和教育担当)
		●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について、取り組むことができていると回答する職員が85%以上	・いじめアンケート等を年2回実施し、覚知した場合は委員会を開き教職員間で情報共有する。 ・いじめに対する教職員の意識啓発のため、研修を年1回実施し、学期ごとに啓発活動を行う。						生徒指導部
		●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・授業等の中で児童生徒のよいところを評価する場面を設定したり、成果を披露する場を設けたりする。 ・将来の夢や目標、楽しみにつながる授業内容を工夫し、児童生徒の得意なこと、好きなことが増えるような授業づくりができているか校内研究で検証する。						自立活動部 研究部
●健康・体づくり		●「望ましい生活習慣の形成」	○指先を意識した手洗いの指導ができていると回答する保護者、職員が80%以上	・現在ある手洗い手順書を改良し、指先を意識した手洗いをするように職員へ呼び掛け児童生徒への指導を行う。 ・感染症予防に関する研修及び保健指導(動画視聴)を行い意識の向上を図る。 ・毎月のほけんだよりで校内の手洗いの様子を掲載し発行する。 ・毎月第3木曜日の「感染症予防の日」に、教職員の理解啓発を図る。						保健部
●地域支援		●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○巡回相談等におけるセンター的機能報告の文書案内や、校内研修及び公開研修等を実施し、専門性の向上につながったと回答する職員が85%以上	・校外支援として巡回相談の実施、電話相談や学校見学等の対応を行う。 ・校内支援として各学部にコーディネーターを配置し、学部間での教育相談体制を整え、他校務分掌との連携協力、他特別支援学校の巡回相談、専門家派遣や校内研修を行い、教職員の専門性の向上を図る。 ・公開研修会の計画や案内を行い、専門性向上のための理解啓発を図る。						相談支援部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進		●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・行事の削減と簡素化、準備の効率化等に取り組む。 ・月1回の完全定時退勤日と月3回の定時退勤推進日について引き続き推奨・実施していく。 ・休暇を取得しやすいように、夏季休業中に6日間の学校閉庁日を設ける。 ・長期休業中の会議・研修は、できるだけ実施期日の集約を行う。 ・冬季休業中に2日以上の日休取得を呼び掛ける。 ・執務室(職員室)では、休憩時間後の業務開始時に15分間の無言集中タイムを設け、一人で集中して作業できる環境を作る。 ・各種会議・打合せの時間は50分以内を目標とし、会議開始時に終了予定時刻を伝えて意識付ける。						管理職

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	---